ると共にそのし方について観察した。

3. イ，かける場合よりはずす場合の方が容易であった。

ロ，全く不可能な者は，2歳児に多く，特にかける場合は，年齢の多い子供でも，ボタンの位置により難易が認められた。

ハ，順序については，2・3歳では不定の者が多いが年齢の増加に伴って一定化し，特にかける場合，上から下に行なう者が多い。

ニ，所要時間については，3歳児では長時間を要するが，年齢の増す毎に急激に可能となり，更に5歳では個人差が少なく速くできる。

ホ，前あき打合せの方法では，男女児とも，右前より左前の方が速かった。

C—91 子供服の留具と機能性について

名古屋女大短大　荻野千鶴子
○滝川　順子
大島　厚子
三上　浩子

1. 幼児期前期は，すでに自立心の芽ばえる時期であるが，衣生活面におけるしつけもこの時期をとらえ，適切な指導によって，更に自主性を伸ばすことが必要である。今回は，ボタンをとりあげ，そのかけはずしによって年齢，男女別の傾向と，母親，幼稚園等のしつけに対する考え方を知る目的で，かけはずしの実験を試みた。

2. 実験方法は，名古屋市内を中心に，幼稚園，保育園等，数カ所における2～5歳の男女児を対象とした。実験資料は，木綿テトロン混紡のギンガムで前あきの実験着を作製しボタンは，直径，10・15・20mmの円形平型とし，打合せの右前，左前の計6種のものをそれぞれ同一の子供に着用させ，かけはずしの所要時間を測定す